



外傷予防 の取組

セーフコミュニティでは、事故やけがの原因を調べるために、さまざまなデータを分析し、より効果的な取組を実施しています。

今回は、救急搬送データから見えてくる外傷の状況から、家庭でできる対策をご紹介します。おうち時間が増えている今、改めて家庭での事故やけがの予防について考えてみましょう！



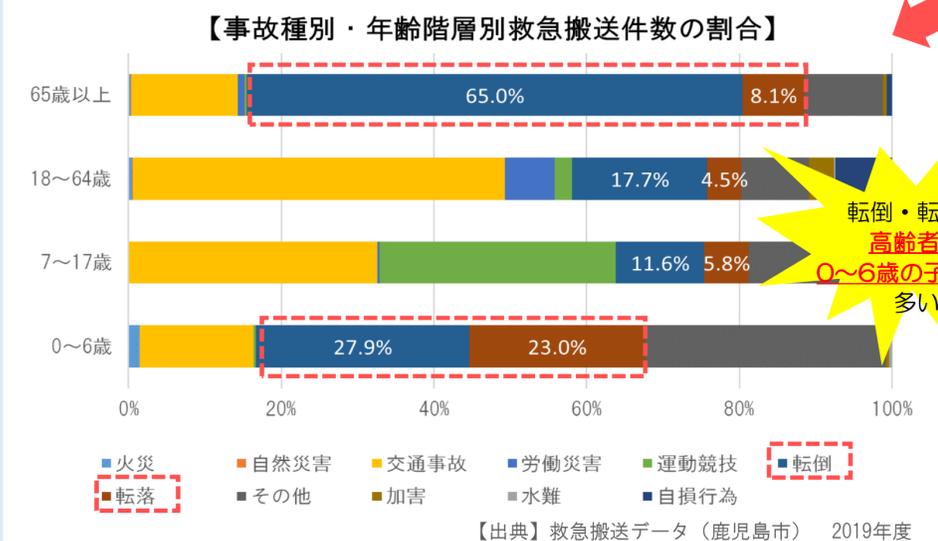
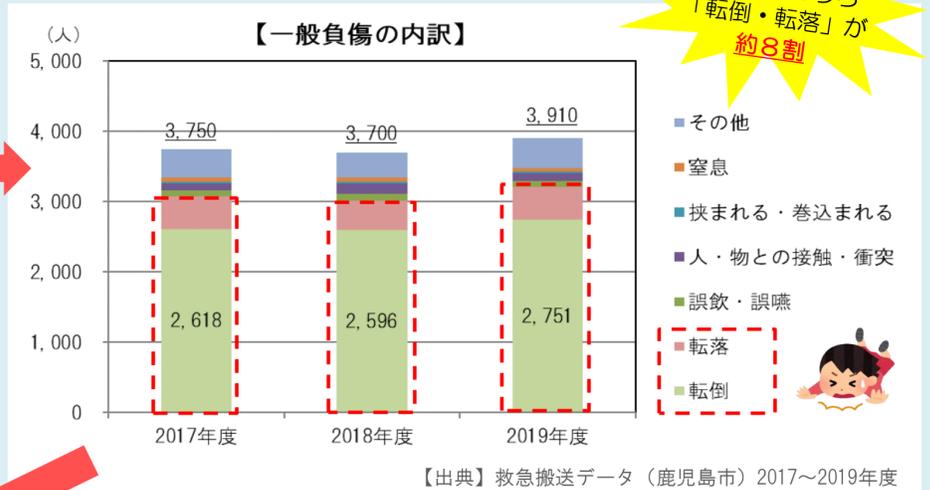
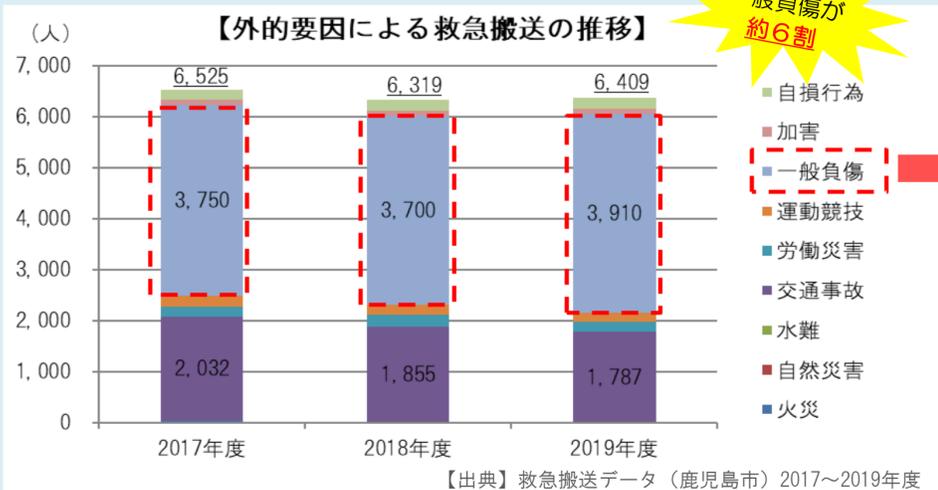
鹿児島市の外傷状況



鹿児島市消防局の救急搬送データによると(※1)、救急搬送の6割が一般負傷によるものであり、さらにそのうち約8割を「転倒・転落」が占めています。(※2)

また、転倒・転落は高齢者や0~6歳の子どもで多くっており、自宅内、特に居室（居間、寝室など）、階段、庭などでの転倒・転落が多いようです。

(※1) 2017年度~2019年度 (※2) 急病、転院搬送、その他を除く



転倒・転落の発生場所

- 高齢者
 - 1位 自宅（敷地内含む）
 - 2位 道路・歩道
 - 3位 老人福祉士施設
- 子ども
 - 1位 自宅（敷地内含む）
 - 2位 商業・飲食・娯楽施設
 - 3位 公園（遊具以外）
- 自宅内の転倒場所
 - 1位 居室（居間・寝室など）
 - 2位 庭
 - 3位 階段
- 自宅内の転落場所
 - 1位 居室（居間・寝室など）
 - 2位 階段
 - 3位 庭

家庭でできる対策

救急搬送の6割を占める一般負傷について、その原因の多くは転倒・転落であるとともに、高齢者や子どもの自宅内での転倒・転落が多いことが分かりました。

自宅での転倒・転落を防ぎ、けがを予防するためには、どのような工夫ができるのか考えてみましょう。

◆◆◆高齢者の転倒・転落予防◆◆◆

- 家の中では素足かすべり止めつきの部屋履きをはく（スリッパをはかない）
- 新聞や雑誌を散らかしたままにしない
- 小さな段差に目印のテープを貼る
- 足元が暗い場所に照明を設置する



ポイント

住み慣れた自宅は安全だと思いがちですが、わずかな段差でもつまづく原因になります。住環境を整えることで、事故やけがを防ぎましょう！

◇◇◇子どもの転倒・転落予防◇◇◇

- 踏み台になるようなものを置かない
- じゅうたんに滑り止めを付ける
- 浴室はドアをしっかり閉める（子どもが一人で入れないようにする）
- ベビーベッドには柵をつける



ポイント

子どもの事故は大人が思いつかないようなことが原因で起こることも。危険箇所を点検する場合は、子どもの目線で周囲を見渡していただくことが大切です。